

# 株主・投資家との対話

## 2023年度の取組み

当社では、株主・投資家の皆様との対話を前向きに行うことで当社への関心・理解を深め、財務・非財務双方で企業価値向上に資するため、2022年度に引き続きIR強化に向けた取組みを行ってきました。

2023年度は中期経営計画「23中計」戦略の進捗と財務目標の達成確度、市場環境や原料・材料価格変動への対応、経営改革の推進の意義・目論見などに着目いただくとともに、IR説明会をはじめとする対話・コミュニケーションの機会により当社への関心や意見・要望を寄せていただきました。

### 2023年度の取組み強化のポイント

取組みのポイント	強化内容
中長期戦略・施策の理解向上	IR説明会を中長期目線の内容に特化（経営改革の推進、カーボンニュートラル戦略等）
当社ビジネスモデルの理解深耕	化成品事業グループ 化成品部門の事業説明会を開催
対話機会設定	社長スモールミーティング、社外取締役面談を実施
対話頻度増	企画担当取締役との対話回数増（証券アナリスト+国内機関投資家）
対話内容の開示	決算説明会（四半期決算公表当日開催）の質疑応答要旨を当社ホームページで開示（英訳開示も実施）

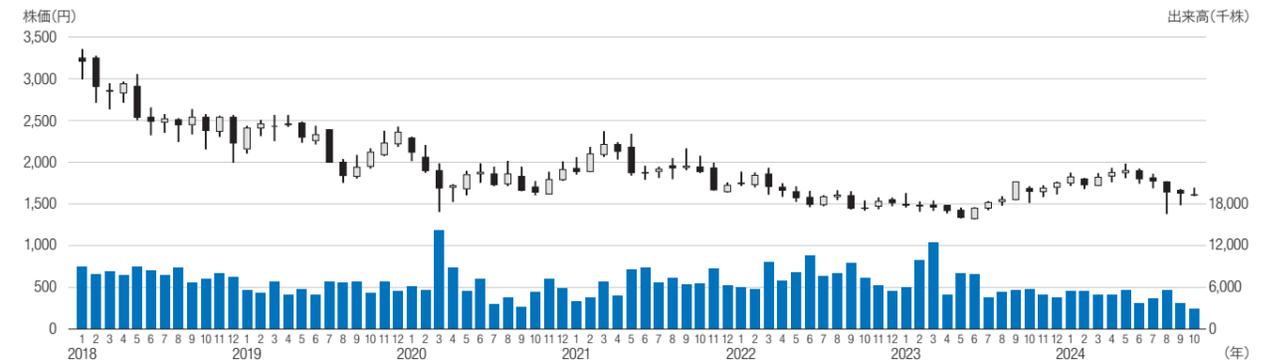
### 2023年度の株主・投資家との主な対話実績

説明会	主な対応者	開催時期	出席者（社数）			個別面談	主な対応者	国内機関投資家	海外系機関投資家	証券会社
			国内機関投資家	海外系機関投資家	証券会社					
IR説明会	代表取締役社長	5月	3	0	7	取締役 企画統括室長	4回	-	8回	
		11月	4	0	7					
決算説明会	取締役企画統括室長、 執行役員経理担当	5月	3	1	7	社外取締役	-	1回	-	
		7月	8	1	7					
		10月	4	2	8					
		1月	10	4	10					
化成品部門 事業説明会	日本軽金属(株) 化成品事業部長	9月	9	0	7	企画統括室 広報・IR担当	37回	24回	22回	
社長スモール ミーティング	代表取締役社長	3月	3	0	6					

## 投資家・社外取締役からの意見と当社取組みへの反映

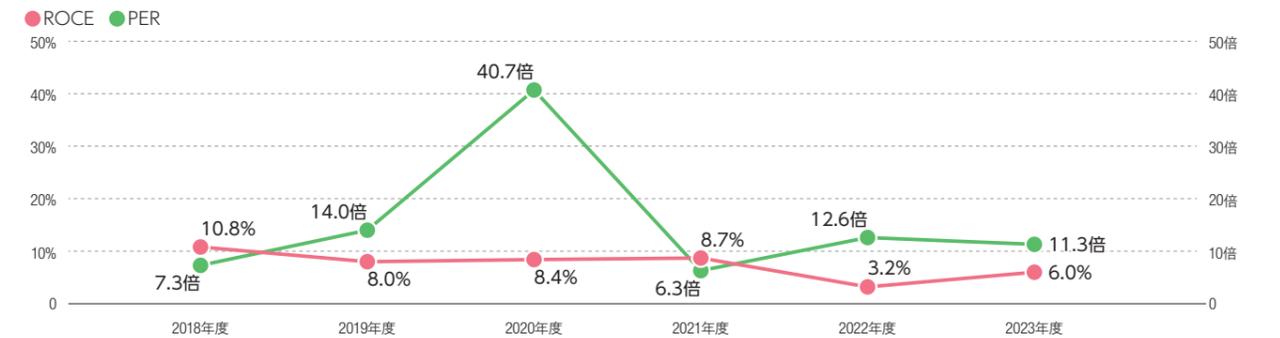
投資家からの意見・要望・ニーズ	当社取組みへの反映
<ul style="list-style-type: none"> <li>●IRを盛んに（情報発信機会増、施策・課題の進捗開示）</li> <li>●投資家意見が経営陣に伝わっているか分からず</li> <li>●社長の考え・思いを聞きたい</li> <li>●資本効率・バリエーション低下に対する認識・考え方・方向性、株主還元に関する経営層での議論を知りたい</li> <li>●ガバナンスの改善、事業統合・構造改革の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業説明会・工場見学会開催（ビジネスモデル理解深耕）</li> <li>●IR説明会をはじめ説明資料内容・情報開示方法の改善（経営課題・戦略進捗の可視化）</li> <li>●IR説明会・決算説明会等での質疑回答・対話の活性化</li> <li>●社長スモールミーティング実施（2024年度以降定期開催）</li> <li>●社長、取締役（企画担当）との対話頻度増（コミュニケーションの向上）</li> <li>●社外取締役との対話機会設定</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●当社の経営がマーケットに十分伝わっていないのでは（事業ポートフォリオが複雑、成長ドライバー、競争力の源泉）</li> <li>●株主・投資家への情報発信が不十分（情報不足から当社への評価低下につながっているのでは）</li> <li>●取締役会へIR活動の定期報告を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経営改革の推進（取締役会の監督機能強化、事業・機能組織のグルーピング）</li> <li>●取締役会への定期報告（年1回程度）はじめ株主・投資家の要望・ニーズを随時共有</li> </ul>

## 株価推移



（注）当社は2020年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施していますので、2019年度（2020年3月期）以前の株価および出来高については、当該株式の影響を考慮した数値としています。

## ROCE、PER推移



（注）ROCE（使用資本利益率）：金利差引前経常利益÷期首使用資本（自己資本+有利子負債-現預金）  
当社では、事業の収益性・成長性を測る観点から投資効率の指標としてレバレッジによる影響の少ないROCEを経営指標の一つとしています。

## 資本効率向上に向けて 現状の取組み

取組内容	売上高当期純利益率の向上	総資産回転率の向上	財務レバレッジの適正化	成長性の向上 事業リスクの低減
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「23中計」戦略実行（自動車・半導体関連など成長分野、新商品での利益成長）</li> <li>●財務目標（経常利益300億円、当期純利益200億円）の達成</li> <li>●経営改革の推進（取締役会の監督機能強化、事業・機能組織のグルーピング）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「23中計」戦略実行（自動車・半導体関連など成長分野・新商品での利益成長の伴う売上高増）</li> <li>●設備投資方針・姿勢（マーケットインでの投資内容・規模・水準・時期判断、「23中計」拡販・新商品に向けた積極性変えずも需要状況に応じ投資時期見直し）</li> <li>●各部門での棚卸資産の適正水準管理維持</li> <li>●当社および子会社における政策保有株の見直し・縮減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●成長投資への積極的姿勢と着実な判断</li> <li>●余剰資金が発生した場合は財務体質の改善に充当（有利子負債返済・キャッシュポジションの厚み増加）</li> <li>●D/Eレシオ（1倍を切る水準を継続）</li> <li>●長期発行体格付の維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「23中計」戦略実行、財務・非財務双方での企業価値向上、経営改革の推進</li> <li>●財務目標（経常利益300億円、当期純利益200億円）の達成</li> <li>●安定的な配当をベースとした株主還元（総還元性向基準30%以上）</li> <li>●IRの強化（経営課題・戦略進捗の可視化、ビジネスモデル理解深耕、対話・面談機会向上）</li> <li>●株主・投資家の要望・ニーズの取締役会への定期報告をはじめ経営層へのフィードバック</li> </ul>
	<p>ROEの向上 効率よく稼ぐ力の強化</p>			
	<p>PERの向上 成長期待値の引き上げ</p>			
	<p>×</p>			